

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：34606

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25671029

研究課題名(和文) ラオス伝統的民謡「ラム」を活用したヘルスプロモーションモデルの開発

研究課題名(英文) Development of health promotion model by using Lao traditional folk song 'lam'

研究代表者

吉田 いつこ (Yoshida, Itsuko)

天理医療大学・医療学部・准教授

研究者番号：90635088

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では主に3つの成果を得た。1)「エイズ対策」と「タイ肝吸虫症対策」をテーマに、ラオス伝統的民謡「ラム」を活用した視聴覚教材を開発した。2)14項目のヘルスプロモーションのための音曲評価尺度は、高い信頼性を示し、4因子構造(「感情移入」、「音楽性」、「文化適合性」、「メッセージの説得力」)の適合性の高いモデルを確認できた。3)教材の「メッセージの説得力」は、介入直後の「コンドーム使用の意図」に、「音楽性」は介入直後の「コンドーム使用の自己効力感」に関連した。また教材は、女性の「コンドーム使用の意図」を介入前から介入直後にかけて強め、介入1か月後まで維持し、その効果が確認できた。

研究成果の概要(英文)：This study brought mainly three outcomes. 1) Two educational media on HIV/AIDS and Liver fluke prevention by using Lao traditional folk song 'lam' were developed. 2) The Scale to Evaluate Music for Health Promotion (SEMHP) with 14 items was confirmed its structure constructed by four factors such as Emotional involvement, Musicality, Cultural fitness and Message persuasion. This scale showed a good level of internal consistency and the model had a reasonably good fit. 3) 'Message persuasion' of the developed educational media on HIV/AIDS was associated with 'intention of condom use' at post-intervention and 'Musicality' was associated with 'self-efficacy of condom use at post-intervention. Additionally, the developed media especially strengthened female's 'intention of condom use' from pre to post intervention and its effect was maintained until a month after intervention.

研究分野：公衆衛生

キーワード：ヘルスプロモーション 口承伝統 伝統的民謡 ラオス 健康教育

1. 研究開始当初の背景

ラオスにおけるヘルスプロモーションの課題は、いかに山間地域の教育機会に恵まれない貧困層の人々を巻き込み、都市部の富裕層との格差を縮小するかである (Lao PDR, 2013)。多くの途上国で試みられているエンターテインメント教育は、ドラマ、歌、演劇などの娯楽を活用した教育手法であり、貧困層や公的サービスにアクセス困難な人々を対象とすることができるアプローチである (Singhal et al, 2004)。これまで、ラオスでも試みられてきたが、ほとんどのプログラムはメディア開発や効果評価において学術的な理論や手法を用いて実施されていない。ラオスにおいて低コストで実現可能なヘルスプロモーションの手法を確立するために早急に取り組まなければならない課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ラオスの伝統的民謡「ラム」をコミュニケーション媒体として健康のメッセージを広め、「ラム」のもつ文化・芸術的な特性が、どのように地域住民の健康識字能力の向上や生活習慣改善のための社会規範の形成に影響を与えるか、その構造を検証することである。

3. 研究の方法

本プロジェクトでは、研究 1~3 で構成された。

(1)研究 1: ラオス伝統的民謡 (モーラム) を活用した視聴覚教材の開発

エイズ対策用教材の開発過程

研究者のフィールド調査を基に、女性工場労働者の日常生活に潜む HIV 感染のリスクに関する物語を作成した後、ラオス人文学者がその物語を基に、ラオスの伝統的な詩を作成した。そして、ラオス情報文化省モーラム局に所属する伝統芸能者らによって、文学者が作成した詩を伝統的民謡に編詩・編曲し、音曲を録音した。最終的に、モーラム局に所属する俳優らの協力をえながら、物語に合わ

せた映像を撮影し、音曲と合わせて編集し、DVD を作成した。

タイ肝吸虫症対策用教材の開発過程

Phongluxa らの研究 (2013) で明らかになった地域住民の魚の調理法に関する誤った知識 (レモン汁やトウガラシには殺菌・殺虫効果がある、アリの排せつ物を生魚に混ぜると魚肉が白く変色することから、加熱した事と同じ効果がある、など) を訂正するために、生魚を食べ続け、タイ肝吸虫に感染し、死に至った男性の物語を作成した。その後、ラオス情報文化省モーラム局に所属する伝統芸能者に、その物語をもとにした民謡歌詞とタイ肝吸虫に関するパンフレット (WHO 作成) をもとにした知識を語る民謡歌詞の作詞を依頼した。伝統芸能者らは、パンフレットの内容を民謡にして唄った CD と物語を民謡にして唄い、それに映像を編集した DVD を作成した。

プレテスト

教材のプレテストとして、若者たちに視聴してもらい、その直後に (1) DVD から何を学んだか、2 週間後に (2) DVD 視聴後に友人や家族らと何について話し合ったか、自由記述してもらった。それらの内容をラベルにおこし、KJ 法 (川喜田, 1986) を用いて (1) と (2) をわけてラベルを統合し、2 つの状況把握図解を作成した。さらに、この 2 つの状況把握図解を基に、本質追求図解を作成した。

(2)研究 2: ヘルスプロモーションのための音曲評価尺度 (SEMHP) の確認的因子分析

対象者: ラオス国立大学 3 学部 (文学部、教育学部、社会科学部) の研究協力が得られた学生 214 人 (女性 122 人、男性 92 人) 平均年齢 20.15 (SD1.52) であった。

データ収集: 研究参加者に研究 1 で開発した音曲を視聴してもらい、その後、SEMHP (Yoshida, et al., 2012) の 14 項目に対して 0~100% で評価をしてもらった。データ収集

期間は、2013年10月～11月の期間に行った。

分析方法：分析にはSPSS ver.22Jを用い、14項目の尺度の信頼性を確認するためにCronbach α を算出した。構成概念妥当性の検証は、4因子構造となることを確かめるために、Amos21.0を用いて確認的因子分析を行った。適合度は、GFI、AGFI、RMSEA、AICを指標とした。

(3)研究3：開発教材の効果の検証

対象者：ラオス国立大学文学部および教育学部の研究協力が得られた学生201人(男性87人、女性114人)

データ収集方法

調査期間：2014年9月～2015年1月

調査方法：文学部、教育学部それぞれの学部で無作為に介入群とコントロール群に割り付け、介入群には開発した教材を視聴してもらい、コントロール群では、エイズ予防啓発のために作成されたパンフレットを読んでもらった。介入のタイミングは、平成26年9月に1回、10月に1回ずつ行った。その効果を測るために介入前と介入直後、1ヵ月後(平成27年11月)にアンケートおよびインタビュー調査を実施した。対象者に、研究者が開発したエイズ教育教材を2回視聴してもらい、その介入前、介入直後、介入1ヵ月後に自記式質問紙調査を行った。

調査項目：効果評価のための項目は、エイズ予防に対する関心、知識、性行為を遅らせることに関する態度・社会規範、コンドーム使用に関する自己効力感・意図・社会規範、PLWHAに対する態度、とした。教材に対する評価としては、14項目からなるScale of Evaluating Music for Health Promotion (SEMHP)で測定した。

分析方法：

介入群とコントロール群の介入前 直後 1ヵ月後の変化

介入1ヵ月後まで追跡できた男子学生50人、

女子学生63人を分析対象とした。まず、介入群(62人)とコントロール群(51人)の差に関してはMann-Whitney検定を、それぞれの群の介入前・直後・1ヵ月後の変化を見るためにFieldman検定を行った。その結果、 $p < 0.05$ である項目に関しては、介入前-介入直後、介入直後-1ヵ月後の変化に関してFieldman検定を行い、 $p < 0.0167$ を有意レベルとした。

介入群の性別による反応の違い

開発した教材の効果の詳細を見るために、介入群のみの対象者を男性(27人)と女性(35人)に分け、それぞれの群の変化を上述と同様にFieldman検定を行った。教材に対する評価の男性と女性の違いについては、Mann-Whitney検定を行った。統計処理にはSPSS22.0Jを使用した。

介入群の反応のパス図

性別による反応の構造の違いを明らかにするために、Amos21.0を使用し、共分散構造分析を行った。

4. 研究成果

(1)研究1

2つの「状況把握図解」(Fig.1, Fig.2)と研究者自身との対話によって得られたラベルは24枚であった。この24枚のラベルを元ラベルとしての狭義のKJ法を実施し、2段階の統合(グループ編成)を経て最終的に7つの島(グループ)となった(Fig.3)。この結果を量的研究の仮説として質問票の作成を行った。

この結果は、第33回日本看護科学学会で発表した。また論文としてHealth Promotion Internationalに現在投稿中である。

また、タイ肝吸虫症対策用教材のプレテストは、今後、科研基盤研究C(課題番号：16K12358)において実施し、その効果の検証を行う。

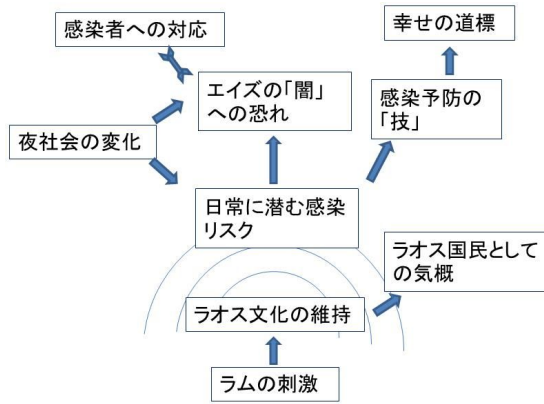


Fig.1 視聴直後の感想

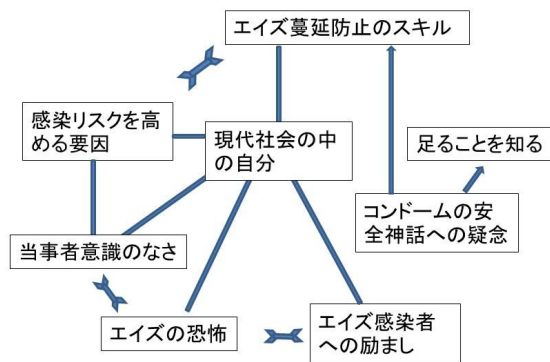


Fig.2 視聴後2週間で話し合った内容

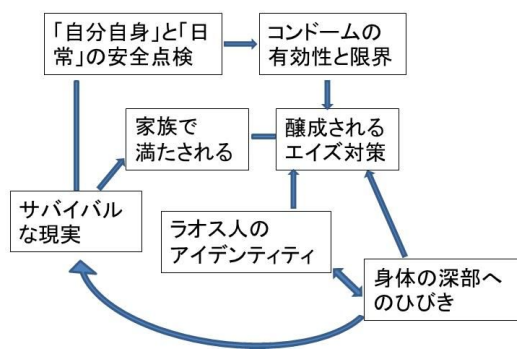


Fig.3 本質追求図解全体図

(2)研究2:

音曲評価尺度の14項目のCronbach α は0.833と十分な信頼性を確認した。また尺度が先行研究(Yoshida, et al., 2012)で示されたように4因子構造となることを確かめるために、Amosを用いた確認的因子分析を行った。4つの因子からそれぞれ該当する項目が影響を受け、すべての因子に共分散を仮定したモデルで分析を行ったところ、適合度指標

は $GFI=.925$, $AGFI=.888$, $RMSEA=.062$, $AIC=196.380$ であった。音楽性と文化適合性、文化適合性とメッセージの説得力の因子間の相関は低かったため2つの因子間相関を0としたモデル(Fig.4)で再度分析を行ったところ、適合度指数は $GFI=.924$, $AGFI=.891$, $RMSEA=.060$, $AIC=192.972$ と最初のモデルよりもデータに適合した結果が得られた。

この結果は、Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conferenceにて発表した。また論文としてArts & Healthに投稿予定である。

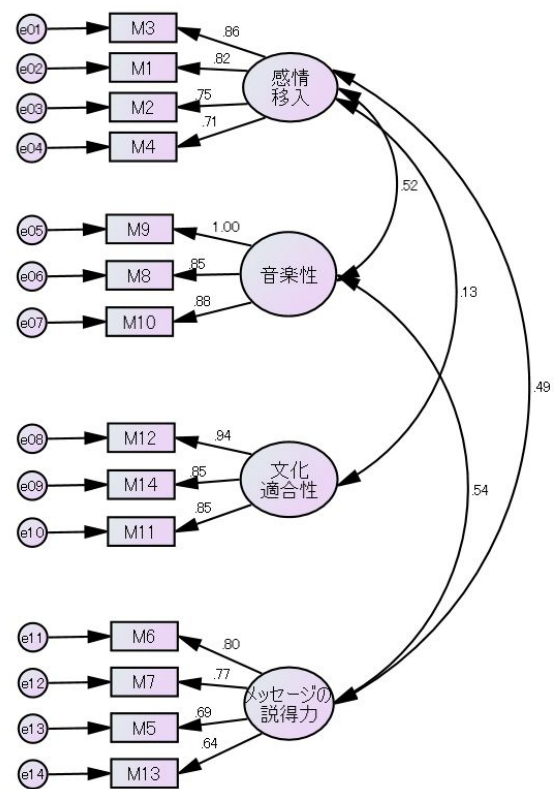


Fig.4 音曲評価尺度項目の確認的因子分析結果

(3)研究3

介入群とコントロール群の介入前、直後、1ヵ月後の変化
介入群とコントロール群で有意な差が見られたのは、直後のエイズに予防に対する関心で、コントロール群の方が有意に高くなっていた。このコントロール群の変化は、Friedman検定にかけると介入前から介入直後にかけて有意に上昇し($p=0.005$)直後か

ら1か月後には有意に下降($p = 0.016$)した。

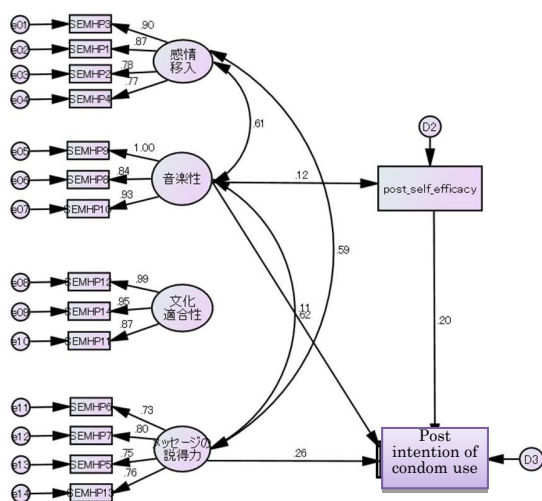
介入群の性別による反応の違い

男性では、すべての評価項目に関して有意な変化を認めなかったが、女性ではコンドーム使用の意図が有意に変化しており ($p < 0.05$) 介入前から介入直後にかけて意図が強まり ($p = 0.006$) 介入直後から1か月後にかけては変化がなかった。教材に対する評価のスコアは、男女で有意な差はなかった。これらの結果から、ナラティブなヘルスメッセージは、男性よりも女性に有効であると考えられ、対象集団の性別によってアプローチを考慮していく必要性が示唆された。

介入群の反応のパス図

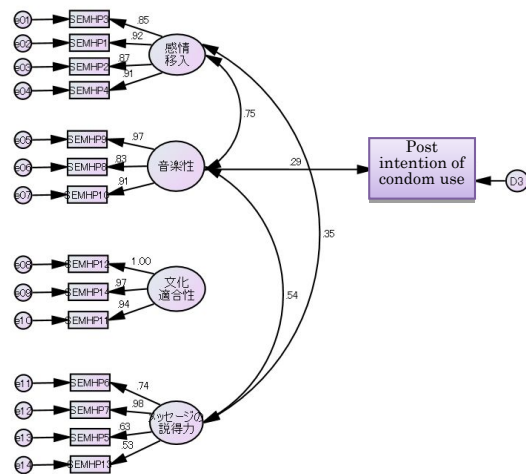
介入群では、教材の「音楽性」が対象者の直後の「直後のコンドーム使用の自己効力感」と「直後コンドーム使用の意図」に、「メッセージの説得力」が「直後のコンドーム使用の意図」に関連していた (Fig.5)

女性の場合、「音楽性」が「直後のコンドーム使用の意図」に関連していた (Fig.6)



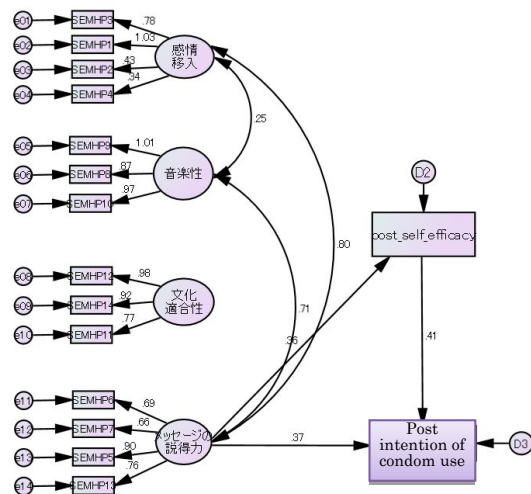
適合度は、 $GF1=.831$, $AGFI=.768$, $RMSEA=.020$, $AIC=175.398$

Fig.5 教材への反応パス図 (男女混合)



$GF1=.756$, $AGFI=.663$, $RMSEA=.053$, $AIC=161.439$

Fig.6 教材への反応パス図 (女性)



$GF1=.634$, $AGFI=.503$, $RMSEA=.125$, $AIC=212.676$

Fig.7 教材への反応パス図 (男性)

一方、男性のみでは、「メッセージの説得力」が「直後のコンドーム使用の自己効力感」と「直後のコンドーム使用の意図」に、「直後のコンドーム使用の自己効力感」が「直後のコンドーム使用の意図」に関連していた (Fig.7)。しかし、これらのパス図は適合度が低く、特に男性において適合度が悪い。今後、分析の対象数を増やして、検討していく計画である。

< 引用文献 >

川喜田二郎, KJ 法-渾沌をして語らしめ

る、中央公論社、1986
The Government of Lao PDR and the United Nations, The Millennium Development Goals Progress Report for the Lao PDR 2013
Phongluxa, K., Xayaseng, V., Vonghachack, Y., Akkhavong, K., Eeuwijk, P., Odermatt, P., Helminth infection in southern Laos: High prevalence and low awareness, Parasites & Vectors, 2013, 6:328
Singhal A., Cody, M. J., Rogers, E. M., Sabido, M., Entertainment-Education and social change: History, research and practice. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates. 2004
Yoshida, I., Kobayashi, T., Sapkota, S., Akkhavong, K., A scale to evaluate music for health promotion in Lao PDR: Initial development and assessment, Arts & Health, 5, 120-131, 2012

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 5 件)

- 1) 吉田いつこ、ラオス伝統的民謡を活用した Entertainment-Education の効果、第 33 回日本看護科学学会、2013 年 12 月 6-7 日、大阪
- 2) 吉田いつこ、ラオス伝統的民謡を活用した Entertainment-Education の効果(第 2 報): 対象者の感想からの内容分析、第 33 回日本看護科学学会、2013 年 12 月 6-7 日、大阪
- 3) 吉田いつこ、ミックスト・メソッドによる健康教育の効果評価: ラオスにおけるエイズ教育、日本地域看護学会第 17 回学術集会、2014 年 8 月 2-3 日、岡山

- 4) Itsuko Yoshida, Kongsap Akkhavong, Effectiveness of Entertainment-education using traditional folk song 'lam': HIV/AIDS education among female factory workers in Lao PDR. The 6th International Conference on Community Health Nursing, August 19-21, 2015, Seoul.
- 5) Itsuko Yoshida, Kongsap Akkhavong, Development of a scale to evaluate music for health promotion in Lao PDR. Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference 2015, September 19 -20,2015, Osaka

〔図書〕(計 0 件)

〔その他〕
なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

吉田いつこ (YOSHIDA, Itsuko)
天理医療大学医療学部看護学科・准教授
研究者番号: 9 0 6 3 5 0 8 8

(2)研究協力者

Akkhavong Kongsap
元ラオス国立公衆衛生研究所・所長

Akkhavong Somchit
元ラオス政府保健省感染症対策課・課長

Douangdeuane Viravong
ラオス政府教育省・アドバイザー